

# 流早死産の病理学的研究

## 胎盤の病理学的検索

東京医科大学産婦人科学教室

相馬 広明 吉田 啓治  
指田 達郎 赤枝 恒雄  
又吉 国雄 向田 利一

### 研究目的

胎児異常の成因を知る手段として、retrospectiveではあるが、母体接触部位にある胎盤末端機能絨毛の病変や、胎児と胎盤との連結部位、または胎児異常時の卵膜の病変などが大いに参考になる。そのため昨年に引続いて流早死産胎盤の病理学的検索を行ったが、本年度はことに胎児奇形との関係や卵膜の病変などについての観察も行った。

### 研究方法

先ず広島大原医研においての66例の周産期死亡剖検例の胎盤の病理学的検索を行った。

さらに本教室での児先天異常合併胎盤の病理学的検索も行った。なお流死産胎盤絨毛および卵膜表層の走査電顕的観察を施行した。そして流早死産卵膜の組織学的観察と、卵膜の抗 $\gamma$ -globulin血清、抗Fibrinogen血清を用いての蛍光抗体法をも施行した。

### 研究結果

#### 1. 周産期死亡胎盤の病理学的所見(表1)

66例の周産期死亡胎盤の病理学的所見では、梗塞(25.8%)、絨毛間血栓(31.8%)、絨毛膜外性胎盤(30.3%)、単一臍帯動脈(10.6%)、臍帯異常(10.6%)、胎盤形態異常(7.6%)となり、ことに児奇形群では、絨毛間血栓や単一臍帯動脈などが高率にみられた。これは私どもの教室での162例の児奇形合併胎盤所見と、113例の周産期死亡胎盤所見からも、児先天異常群に単一臍帯動脈(8.0%)、周産期死亡群では、臍帯異常(18.6%)と高率にみられている。

そしてその際の死産胎盤25例の組織学的所見では(表2)、絨毛のフィブリノイド変性(68%)線維化(28%)、密集・硬化(24%)、うっ血と血管腫化(20%)、絨毛間質水腫化(24%)、シ結節やシ橋梁増加(36%)などが認められた。その他胎盤基板および基幹絨毛血管変化(20%)、卵膜の変化として羊膜絨毛膜炎(20%)、絨毛間腔炎(28%)、脱落膜炎(16%)などが認められた。

#### 2. 流早死産胎盤絨毛の走査電顕的観察

初期流産絨毛表層では、シ芽の不整形や微絨毛の欠損がみられる他、稽留流産絨毛ではシ芽の変形が著しく、その表層はフィブリン様物質で被われている。妊娠中期死産絨毛表層では、溝状の陥没や圧痕状のくぼみおよび微絨毛の不揃いが目立った。

#### 3. 流早死産胎盤の卵膜の病理学的観察

死産胎盤の22%位に卵膜の炎症変化を認めしたが、ことに胎内死亡例の羊水中のIgG, IgM, IgA値, FDP値が高値を示す例がみとめられたことから、稽留流死産時の卵膜表層の走査電顕的観察を行ったところ、著明なフィラメント様構造を有するフィブリン網形成が認められた。また卵膜の抗 $\gamma$ -globulin, 抗fihrinogen血清を用いての蛍光抗体証明を行ったところ、羊膜組織にIgG, IgA抗体の存在を認め、フィブリノゲン抗体は羊膜絨毛膜ともにその存在が証明された。

### 考察と要約

今回の観察結果から、前回の報告と同様、死産および児奇形合併胎盤の病理学的所見として、臍

帯血管異常，臍帯付着異常が高率に見出された。これは前回にも報告した通り，臍帯付着部位が極端な程児異常の発生が多くなること，および臍帯一動脈欠損がなんらかの形で児異常に関連していることを示すものである。さらに流死産時の卵膜の炎症性変化がかなりの頻度に認められるが，一方死産時羊水中に蛋白の異常増量が見出されることと相俟って，卵膜の病変が羊水中への蛋白や抗体移行に関与しているように考えられる。また死産胎盤機能絨毛の病変としての表層の hypoplastic な形態変化は，児死亡による機能不全所見なのか，それとも逆にその起因であるのかは判明しないが，今後の研究課題となろう。しかも死産胎盤絨毛の組織像からは，退行性病変の他に，一方ではその代償性病変併存をも伺えるし，また chorangiosis のような絨毛血管病変や，胎盤基板上の X 細胞の残存著明もみられ，児死亡後の胎盤機能維持になんらかの役割を果しているのかもしれない。

## 文 献

1. 相馬広明：胎盤機能の形態的变化，現代産婦人科大系14A, 72, 1975
2. 向田利一，吉田啓治，相馬広明：流死産胎盤絨毛の走査電顕的観察，第8回臨床電顕学会発表 昭51, 9, 18 於名古屋
3. 又吉国雄，吉田啓治，相馬広明，岡本直正，宮原普一：E-trisomy症候群の胎盤の観察 第16回先天異常学会発表昭51, 9, 18 於名古屋
4. 相馬広明，吉田啓治，金兌貞：子宮内リステリア感染症例，臨婦産31巻1号，1977
5. 菊地威史，三枝裕，中村秋彦，多田正毅，高山雅臣，相馬広明：異常妊娠時における血清および羊水中の免疫グロブリン値，第1回産婦血液研究会発表 昭51, 11, 18 於東京
6. 相馬広明，吉田啓治：多胎々盤についての考察 産と婦43巻7号935, 1976
7. 高山雅臣，多田正毅，菊地威史，相馬広明：妊娠中のPregnancy specific proteinの動態 産婦世界28巻10号945, 1976

表1. 周産期死亡胎盤の病理学的所見

	メコニウム汚染	梗塞	絨毛間血栓	出血	絨毛膜外胎盤	単一臍帯動脈	臍帯異常	形態異常
流産群 (12例)	0	0	3	4	3	0	0	1
死産群 (22例)	3	9	8	2	7	0	4	0
奇形群 (32例)	0	8	10	2	10	7(8)	3	4
66例 %	3 4.5	17 25.8	21 31.8	8 12.1	20 30.3	7(8) 10.6	7 10.6	5 7.6

Table 2. HISTOLOGICAL FEATURES OF THE PLACENTA IN FETAL DEATH

25 cases (H.U.N.M.R.)

	<u>no</u>	<u>%</u>
<u>VILLOUS OHANGE</u>		
FIBRINOID NECROSIS	17	(68)
FIBROSIS	7	(28)
CONDENSED SCLEROTIC	6	(24)
VASCULAR CHANGES OF STEM VILLI	5	(20)
ENGORGED & CONGESTED	5	(20)
PROLIFERATION OF SYNCYTIAL KNOTS & BRIDGE	9	(36)
HYDROPIIC OR LOOSE STROMA	6	(24)
CALCIFICATION	6	(24)
MICROINFARCT	3	(12)
I.T.V.T.	5	(20)
<u>CHORIONIC &amp; BASAL PLATES</u>		
PROMINENT CELLS	3	(12)
HEMORRHAGE	4	(16)
TROPHOBLASTIC INVASION	2	( 8)
<u>MEMBRANES &amp; CORD</u>		
CHORIOAMNIONITIS	5	(20)
INTERVILLOSITIS	7	(28)
VASCLLITIS	1	( 4)
DECIDUITIS	4	(16)

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的

胎児異常の成因を知る手段として,retrospective ではあるが,母体接触部位にある胎盤末端機能絨毛の病変や,胎児と胎盤との連結部位,または胎児異常時の卵膜の病変などが大いに参考になる。そのため昨年に引続いて流早死産胎盤の病理学的検索を行ったが,本年度はことに胎児奇形との関係や卵膜の病変などについての観察も行った。